

文部科学省実績評価書－平成16年度実績－（概要）

1. 趣旨・目的

平成17年度文部科学省実施計画に基づき、「文部科学省の使命と政策目標」の実現に向けて文部科学省が平成16年度に取り組んだ施策について実績評価を実施

2. 実績評価書の内容

42施策目標(204達成目標)ごとに以下の内容を作成

- ・施策目標、達成目標について、平成16年度の達成度合い(4段階)
- ・現状分析・今後の課題・評価結果の政策への反映方針
- ・指標・参考指標
- ・主な政策手段
- ・政策評価担当部局の所見
- ・評価結果の概要についての説明図

3. 評価書の主な改善点

総務省からの指摘等を踏まえ、以下の各点を改善

- (1) 施策の成果を定量的に把握するための指標やデータを充実
- (2) 施策目標や達成目標の達成度合いの判断基準を明示
- (3) 政策評価担当部局の所見により今後の評価の改善の方向性を提示

施策の成果を定量的に把握するための指標やデータを充実

各施策の成果を定量的に把握するための指標やデータを充実させ、目標の達成度合いの測定の客観性の向上を図った。

- 施策目標や達成目標の達成度合いの判断に直接結びついた指標の数



- 施策目標や達成目標の達成度合いの判断の材料とした参考指標の数



- その他、施策や事業の状況の判断に用いたデータの数



- 総計



施策目標や達成目標の達成度合いの判断基準を明示

各施策目標及び達成目標について、「ア＝想定した以上に達成」「イ＝想定どおり達成」「ウ＝一定の成果があがっているが、一部については想定どおり達成できなかった」「エ＝想定どおりには達成できなかった」の4段階で判断する際の基準を明示し、判定結果の客観性の向上を図った。

判断基準の具体例

○定量的な判断基準の例

達成目標6-1-1（基準年度：12年度 達成年度：22年度）
大学発特許取得数を10年後に15倍に増加する。

【達成度合いの判断基準】

- ・ア = 特許取得件数が当該年度の想定基準に対し100%以上の場合
- ・イ = 特許取得件数が当該年度の想定基準に対し80%～100%の場合
- ・ウ = 特許取得件数が当該年度の想定基準に対し50～79%の場合
- ・エ = 特許取得件数が当該年度の想定基準に対し49%以下の場合

※平成16年度における特許取得件数の想定基準は581件

○定性的な判断基準の例

達成目標4-9-5（基準年度：12年度 達成年度：16年度）
地球観測等への利用が可能な成層圏プラットフォーム飛行船システムを実現するため、平成16年度までに、「成層圏滞空飛行試験」及び「定点滞空飛行試験」を通じて飛行船の成層圏到達技術及び定点滞空技術を確立する。

【達成度合いの判断基準】

[定点滞空飛行試験]（平成16年度）

- ・ア = 飛行船の制御技術について、風速や突風など、想定を超えた気象条件において下記要求値を満足した。
- ・イ = 「定点滞空飛行試験」を実施し、高度4kmにおいて、自律飛行により要求値内（水平面内1km、高度±300mの範囲内）に飛行船の位置を制御する技術を確認した。
- ・ウ = 高度1kmで自律飛行に成功した。
- ・エ = 高度1kmにも到達できなかった。

政策評価担当部局の所見により今後の評価の改善の方向性を提示

上記の各点について、今回の評価書では改善できなかったものについては、今後改善すべきものとして、「政策評価担当部局の所見」欄において明示し、論点の明確化を図った。

○ 施策目標や達成目標の達成度合いの判断基準を明らかにすることを検討すべきとされたもの： 11件

○ 施策の成果を把握するための指標を設定することを検討すべきとされたもの： 17件

（42施策目標のうちの延べ数）

